19．Oneman Chamberによる高気圧酸素治療12年の経験

浦山　博[*1)]　川上健吾[*1)]　吉羽秀麿[*1)]
笠島史成[*1)]　石川紀彦[*1)]　渡辺洋宇[*1)]
中山博文[*2)]　富田勝郎[*2)]
([*1)]金沢大学医学部第一外科　[*2)]　同　整形外科　)

Davisらによると高気圧酸素治療（HBO）中の偶発医療事故は563症例中4例であったという。多人数用治療装置であれば装置内での処置も可能であるがoneman chamberでは減圧開放まで待たなくてはならない。今回，病院におけるHBOの経験から偶発医療事故防止の対策を検討したので報告する。

【症例】1981年8月から1992年12月までに金沢大学病院にて施行されたHBOは440症例に対して5160件であった。疾患は突発性難聴199例，末梢循環障害114例，網膜動脈閉塞症38例，CO中毒32例，脳血管障害15例，脊髄神経疾患15例，潜水病5例，骨髄炎5例，腸閉塞3例，ガス壊疽2例，その他12例であった。偶発医療事故は1987年（症例1）と1992年（症例2）に認めた。症例1．79歳，女性。疾患：前脊髄動脈症候群。合併症：脳梗塞。併用療法：ウロキナーゼ，ステロイド動注。HBO：3ATA×60分×9回。9回目のHBO減圧終了時に突然，呼吸停止，意識消失を認めた。心肺蘇生にて回復した。症例2．23歳，女性。疾患：脊髄損傷。合併症：喘息，肺挫傷。併用療法：脊椎弓切除術，後固定。HBO：3ATA×60分。減圧中(1.3ATA)の時，呼びかけに反応なし。緊急開放にて呼吸停止状態であったが心肺蘇生にて回復した。

【対策】HBO施行前に必要な検査とHBO中に急変する可能性のある患者の選出およびその治療指針の確立。

20．名古屋大学高気圧治療部25年間の治療概況

小林繁夫　山本五十年　徐　小禾
西山博司　末永庸子　　片山貴晴
林　啓介　高橋英世
（名古屋大学医学部附属病院高気圧治療部）

【目的】1968年，名古屋大学医学部附属病院に第2種高気圧治療装置KHO-400特殊型が，また1987年には新しくKHO-405型が設置され，われわれは種々の適応疾患に対するHBOを施行すると同時に新しい適応疾患の開発にも努力してきた。当院でHBOが開始されて以来，ここに四半世紀が経過したのを機会にわれわれの施設でこれまでにHBOの対象となった疾患およびそれに対する治療概況を調査・検討した。

【方法】1968年4月から1993年3月までの25年間に，名古屋大学高気圧治療部で実施された107,928件，2760例のHBOを調査の対象とした。これらの症例の疾患名および治療件数などを年別に調査し，これらの疾患を日本高気圧環境医学会の安全基準に記載された適応疾患とそれ以外の疾患に区分し，検討した。

【結果・考案】HBOの対象となった100,085件，2,579症例（93.4%）は，すでに適応疾患と認められた疾患に対して行われたものであった。また，残りの7,843件，181症例に対して実施されたHBOは，適応疾患以外の疾患に対し行われたものであった。しかし，現在，適応疾患として認められていないこれらの疾患に対してもHBOの奏効機序に鑑みて有効性が考えられたものの，その効果は未だ確定されておらず，これらの疾患がHBOの新たな適応疾患として認知されるためには，これらの疾患に対するHBOの効果に関してさらに基礎的，臨床的検討を継続することが必要であると考えられた。